

中部電力／三重県
中三

木質チップ混焼発電を実証

初の県産間伐材使用で

中部電力と三重県

活性化を目指すもの。

は、愛知県碧南市の碧

南火力発電所（出力70

万キロワット×3基、同10

万キロワット×2基）で、

石炭に三重県産木質チ

ップを混合して発電す

る実機試験を実施し

た。チップの原料に県

内の未利用材を活用す

ること、地元林業の

などを検

証した。

試験に用

いた実機

は出力1

00万キ

ワットの5号

機で、木

質チップ

をコンベ

ヤ上で石

炭と混合

し、微粉

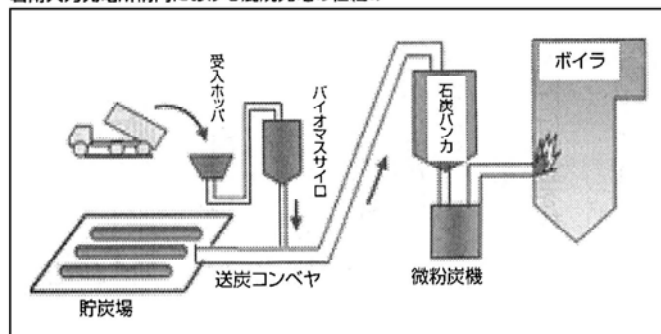
炭機で粉

砕後、ボ

イラで燃

焼させる

碧南火力発電所構内における混焼発電の仕組み



仕組みとなっている。

中部電力は、201

0年9月から同発電所

で海外産の木質チップ

を用いた混焼発電を本

格運用させてきた実績

を持つが、国内産チ

ップを使つての取り組

みは初。三重県は、県

産

木質チップの普及を

進

めるため、09年12月

から同社と利用連絡会

議

を設置して検討を進

めてきたという。

木質チップの原料に

は、原木の根元や枝

など、曲がりや細すぎ

るなどの理由で建築用

材に適さず、林地に放

置されてきた未利用材

を活用。チップへの加

工は、三重県松阪市で